

SHINSYU DESIGN COMPETITION 2016

 長野県デザイン振興協会

「デザインが社会で使われるコンペ」

当会は、信州の地域特性を活かした信州ならではのデザイン提案を募り選考するデザインコンペ「LIFE DESIGN 信州」を過去8回開催し、地元デザインの盛り上げに寄与してまいりました。

9回目となる今回からは新たに「より地元産業と結びつき、貢献する」ことを目的に、長野県内企業3社から商品化・実用化を前提とした課題を提供いただき、プロのデザイナーはもちろん、学生の方や、一般の方々から広く作品を募集いたしました。

その結果、ドイツを含め、日本の各地から180点の作品応募がありました。

今回設定された課題は以下の3つです。



「ほしりんご 紅玉・グラニースミス・ペルドボススクープ」
3種類のパッケージをデザイン。

株式会社山下フルーツ農園

長野県上水内郡飯綱町



「信州北ハケ岳山麓豚」生肉500gの
パッケージをデザイン。

きたやつハム株式会社

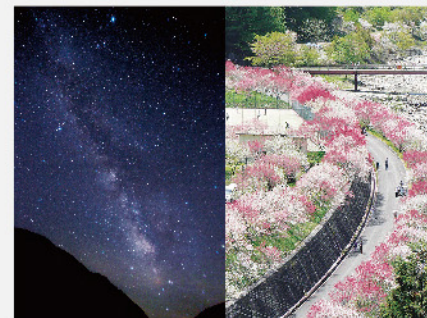
長野県南佐久郡佐久穂町



「日本一の星空」「日本一のはなもも」の
2種類のロゴマークデザイン。

株式会社ちさと東

長野県下伊那郡阿智村



◎選考基準

- 実用化・商品化を前提としたデザインであること。
- 商品の販売促進や、ブランド化に寄与することを目的としたデザインであること。
- 課題提供企業のヒアリング記載された内容に則したデザインであること。

◎選考経過

「第一次選考」全応募作品を選考し、課題1:25作品、課題2:11作品、課題3:9作品を選出

「第二次選考」一次入選作品から点数方式により、課題1:13作品、課題2:9作品、課題3:6作品を選出 その中から各課題で一番優秀な作品「優秀賞」を選出

「グランプリ選考」各課題の優秀賞の中から、最も優れている作品をグランプリとして選出

「選考委員特別賞」全応募作品から、各選考委員が1作品を選出

「学生賞」

「学生賞グランプリ」学生作品の中から、優れている作品を選出 その中で最も優れている作品を学生賞グランプリとして選出

「入選」第二次選考で高得点の作品を入選として選出

◎講評

「グランプリ」に選ばれたのは東京都のデザイナー古畑 健太郎さんの作品「HOSHI RINGO」です。この作品はお酒と合わせて「ほしりんご」を楽しむことを目的に、緩衝材を兼ねる紙製の星型トレイがパッケージングされ、目を引く仕上がりになっています。加えて単に製品をパッケージするだけでなく、「ほしりんご」を楽しむ「こと」までをパッケージで実現することを提案している点が高く評価され、3名の選考委員の最高点を獲得しました。

選考委員（コメントは審査会での発言より抜粋）



水口 克夫氏
アートディレクター
株式会社Hotchkiss 代表

生産者の皆さんが思いもよらない発想、価値づくりができるのがデザインなんだろうと思います。（グランプリの作品について）せっかく「ほしりんご」という美しい日本語の名前があるので、（うまくまとめやすい）アルファベットに逃げずに（日本語をどう美しく組むか）トライしてほしいと思いました。

私は金沢でも会社を持っており、「地方でのデザイン」が最近の自分の課題になっています。今回この審査に参加してみて、クライアントが直接皆さんのデザインを見に来たりしてとても良いなと思いました。こうした活動が広がっていくと地方でデザインが良くなっていくのではないかと思います。



中沢 定幸氏
アートディレクター
グラフィックデザイナー
中沢デザイン事務所 主宰

はじめての審査で緊張感を持って審査にあたりましたが、やはりグランプリの作品が（文字通り）一番光っていたように感じました。もったいない精神じゃないですが、皿としてリユースする・最後まで使い切る発想が、食卓での会話が聞こえてくるようでした。

常々、コンペ作品の提案したものが提案だけで終わらずに、製品・商品となって世に出て行く方が良いと思っています。今回のこういったコンペで、クライアントの意見を聞きながら製品化に向けて進んでいってもらえたら良いと思います。



内田 和美氏
プロダクトデザイン教授
富山大学 芸術文化学部

グランプリ作品には、ただ目立つとかではなく、お皿として提案することで「皆さんと一緒に楽しもう」という価値が入っていました。これは買った後の信州の食の楽しみ、信州ならではの楽しい会話を喜びを皆（生産者や流通者も含めた）で共有しようというモノへの物語が戦略的に入っていました。

今回審査をして選んで、さあこれからこれをどう世に出していくかを皆で考える。コンペ自体が新しい領域に入ったと感じました。ここから先が正念場であり、ここから先が本当に面白いところだと思います。



対象課題*「ほしりんご」3種類のパッケージデザイン。

HOSHI RINGO



古畑 健太郎 (ふるはた けんたろう)

古畑 理枝 (ふるはた りえ)

ムラハタワークス
デザイナー

無着色・無漂白という素材そのまの味を活かした「ほしりんご」は、品種による味覚や食感の違いがあり、多種多様なお酒との組み合わせも楽しめる可能性を秘めています。そこで、みんなが集まる場所で、お酒といっしょにわいわい楽しみながら食べるためのデザインを検討し、買ってきてそのままテーブルに出したくなる「ほし(干し)＝☆」とかけた星形のトレイ付きのパッケージを考えました。

トレイの素材は厚紙で、一見複雑な形状ですが、型抜きと折り込みだけのシンプルな造形で、見た目の可愛らしさだけでなく、こぼれにくさや、手にとりやすさなど、機能性にも配慮しています。



対象課題*「信州北ハケ岳山麓豚」生肉500gのパッケージデザイン。

おいしさをフレームに込める



自然豊かな八千穂高原で大事に育てられた豚。その豚はやがて加工され、新鮮な精肉となります。

その精肉のパッケージデザインを考えたとき、まず思い浮かんだのは「フレームに納めたい」ということ。フレームに納めるという行為には、思い出や記録を大事に扱うという意味があります。1頭1頭大事に育てられた豚にこそ、ふさわしいのではないかと感じました。

また、私自身が精肉を購入する場合、肉そのものの質感や色など、ちゃんと目で見たいと考えます。口の中に入れるものなので、鮮度などの安全性を確かめたいという気持ちがあるのだと思います。この精肉のパッケージを、表裏見えるようにした理由はそれです。

製品化されしたら、ぜひみなさまご自身の目で鮮度確かめ、大事に育てられた豚のおいしさを味わっていただきたいと思います。



たきざわ りょういち
滝澤 亮一
株式会社エイブルデザイン



対象課題*「日本一の星空」「日本一のはなもも」の2種類のロゴマークデザイン。

満点と満開



の日本
星空一



の日本
花桃一



満点の星空



満開の花桃

「日本一の星空」は日本一美しく星空がみえる場所に相応しい「星咲き満ちる」を、「日本一の花桃」は日本一美しく花桃が咲き誇る場所に相応しい「花咲き満ちる」を体現しました。コミュニケーション戦略としては、この二本の柱が際立ちながらも、統一連動性をもたせ、相乗効果を生み出せる設計にしました。世界観としては、折り紙の星や花が類似する形であることに気づき、折り紙をモチーフに日本らしいデザインにしています。

一度も拝見したことがない絶景。

一生に一度はみてみたいという思い一心でデザインをつくりました。この絶景がロゴマークと共に来観者の皆様にとって、深い感動と美しい思い出になりますよう心より願っております。



おおい ふくや
大井 福也
ANDAND (アランド)
ブランディングデザイン



対象課題*「ほしりんご」3種類のパッケージデザイン。

まるごとほしりんご



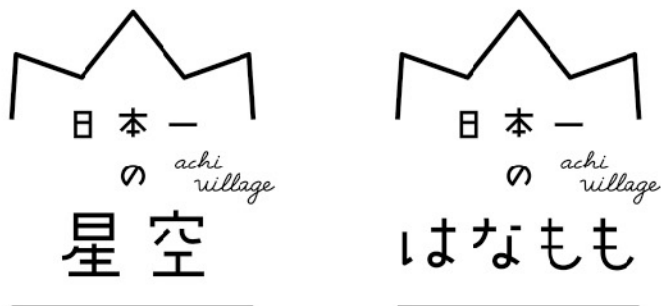
今回、私が応募したこの「まるごとほしりんご」のコンセプトは、タイトルの通り、りんごでまるごと1つ分、という要素をストレートに表しつつ、その中でクラフト系の紙や落ち着いた色を使うことでプレミアム感や暖かさ、自然の恵み、など山下フルーツ農園様のこの商品へのこだわりをイメージできるようにデザインしました。また、ほしりんごという商品自体をひとつのブランドとして確立できるよう、新しいロゴマークも考案し組み込みました。形状に関しては、商品上部のヘタを引き抜くことで4つの弁が開くようになっています。ヘタ部分は筒状に丸めた紙でできており、そこに商品紹介等が記載できるようにしました。更に一枚の紙に印刷し組み立てられるのでコストも低く抑えられます。

しげた かずき
重田 和輝 専門学校未来ビジネスカレッジ



対象課題*「日本一の星空」「日本一のはなもも」の2種類のロゴマークデザイン。

「日本一の星空」「日本一のはなもも」ロゴデザイン



ロゴを二つ並べることも単体で使うこともあるとのことだったので、分かりやすい共通点があるデザインにしようと思い、「日本一」という言葉から「王冠」を共通シンボルとしたロゴを作りました。ロゴの上部分には王冠だけではなく阿智村に広がる山々のイメージも込めております。

形は様々なブランド・アイテムに展開されていくことを踏まえて、直線・曲線といったシンプルな要素を使い、色も1色でまとめました。

課題内容に含まれてはなかったのですが、ロゴを単体で使うようなシーンでも「阿智村」という名前を広報できればと考え、村の名前を加えたデザインにさせていただきました。



かなもり ようこ
金森 陽子
株式会社アルビレオ
アシスタントデザイナー



対象課題*「信州北ハヶ岳山麓豚」生肉500gのパッケージデザイン。

豚のしっぽ



お客様が一目見て、豚肉とわかるように開封用タグを豚のしっぽにデザイン。また、販売所において並べて陳列した際に、売り場にたくさんの豚が並び、販売所を華やかに演出することができる。

パッケージ形状は加工肉で有名な「きたやつハム」のブランドを感じさせるため、ハムのアウトラインをかたどった形状とした。トレイを無くし、プラスチックの蓋と真空パックの構成にすることで、冷凍庫内の設置スペースを抑えることに加え、分別や廃棄のしやすさに配慮している。



なかむら あゆむ
中村 歩
まきの たかし
牧野 喬
セイコーエプソン株式会社

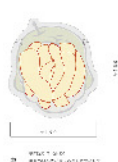


対象課題*「ほしりんご」3種類のパッケージデザイン。

りんご三姉妹

りんご三姉妹

りんご三姉妹は、りんごの魅力を表現し、りんごの魅力を伝えるためのパッケージデザインです。りんごの魅力を表現し、りんごの魅力を伝えるためのパッケージデザインです。



酸いも甘いも経験したばあちゃん表情で、ほしりんごの魅力表現。三種のりんごを姉妹とし、愛着が湧くパッケージにしました。

オモテ面はイラスト全面プリントにすることで、大きく描かれたばあちゃんの顔が目を引き、思わず手に取りたくなります。ウラ面は透明フィルム(成分表示別ラベル添付)にすることで、中身のりんごを確認出来て安心して購入することが出来ます。

長女:ベルばあちゃん(ベルドボスコープ)は世話好きでマイペース。趣味は料理。

次女:玉ばあちゃん(紅玉)はちょっぴり頑固で繊細。趣味は家庭菜園。

三女:スミスばあちゃん(グラニースミス)はちゃっかり者の自由人。趣味はスイミング。



とよしま さちよ
豊島 さちよ
主婦



対象課題*「ほしりんご」3種類のパッケージデザイン。

入選

特別なホシリンゴ

実際にこのほしりんごを食べた時、今年の春に信州を旅したことを思い出した。まだ少し肌寒い季節だったが、陽射しは柔らかく暖かく、澄んだ空気が美味しかった。そんな土地で育ったりんごの味がぎゅっと詰まった「特別なホシリンゴ」をたくさんの人に届けたいという思いを込めて小包のようなパッケージにした。

もりぞの さき
森園 沙希



対象課題*「ほしりんご」3種類のパッケージデザイン。

入選

ステッチパッケージ

りんごのアップリケのような手作りのぬくもりが感じられる事と、ひとつひとつ丁寧に手縫ひまかけて育てられたりんごをまるごと味わえるという事を、分かりやすく訴求したパッケージを目指しました。パッケージの素材は、やわらかくコシのある和紙を用い、縁をステッチで縫じたりんご型。ミシン目を入れた罫り跡の開口を破いて中身を取り出す、その行為も楽しめるようにしました。商品ロゴと品番名は、通常の印刷物ではあまり見かけない刺繍で表記する事で、人の手が感じられるプレミアムな印象に。別途タグを付ける事で、買味期限や原材料表示等の要素、りんごの品種の説明、商品のアピールポイントを入れる事も可能です。また陳列する際も、ランダムで吊り下げてディスプレイすると、りんごの実がなっているような目に楽しい空間に。



うえまつ あきこ
植松 晶子
株式会社日本デザインセンター



対象課題*「ほしりんご」3種類のパッケージデザイン。

入選

山下フルーツ農園 ほしりんご

商品の最大の魅力である「りんごまるごと1個分のおいしさ」を、りんごをかたどったパッケージでかわいらしく表現。初めての方でも親しみやすく、自分用にはもちろん、お土産やプレゼントとして、人に渡したくなるデザインを目指しました。



かじかわ はるか
梶川 遥



いまいち たつや
今市 達也



まるやま
丸山 るい



対象課題*「信州北ハケ岳山麓豚」生肉500gのパッケージデザイン。

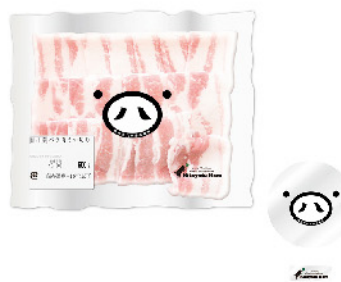
入選

きたやつがたけ 36 (サンロク) ぶたパッケージ

年間平均気温が低く、高冷地で高品質な豚を育成しているとのことで、湿み切った信州の空気感や清潔感を、高級感のあるアルミ素材(銀色)の真空パックと透明ビニールで表現しました。また、アルミとビニール素材の境目で、佐久穂町方面から望むハケ岳のシルエットと雪の結晶を配し信州らしさを表現しています。「36」は「山麓」の語呂合わせで、アイキャッチロゴとして制作しました。素材のもつ質感を生かし、シンプルなデザインと包装にして、高級感を出しながらもコストを抑えたデザインになるように考えました。



みぞぐち りょう
溝口 諒
でざいんと
グラフィックデザイナー



対象課題*「信州北ハケ岳山麓豚」生肉500gのパッケージデザイン。

入選

しぐさの変わる豚さんパッケージ

「平に並べられるので、並べられた状態の見え方にこだわり、パッケージにかかるコストも低い場合を見てみたい」との課題がありましたので、パック自体はシンプルに透明ビニールの真空パックを想定。「きたやつ」「ハケ岳」から「ハ」をモチーフに豚の鼻を模したシンボルマークを制作し、シンボルと目、ロゴマークを透明のシールに印刷して、ビニールパッケージに貼り付ける案を考えました。シンボルマークと目のシールは、貼り付ける位置や角度を変えることで、「正面を向いている豚さん」「見上げている豚さん」「振り向く豚さん」など豚さんのしぐさが変わって見えます。並べてみると色んなしぐさの豚さんが陳列されるので、売り場を楽しく演出できればと思いデザインしました。



みぞぐち りょう
溝口 諒
でざいんと
グラフィックデザイナー

対象課題*「日本一の星空」「日本一のはなもも」の2種類のロゴマークデザイン。

入選

一番星

「2つセットでも、それぞれ単体でも使用できるロゴマーク」という課題だったので、2つのマークをセットにした時に、上部に「日本一の星空」のシンボルマーク、下部に「日本一の花桃」のシンボルマークを配して、阿智村の雄大な自然を表せればと思い制作しました。星空のシンボルは、「星」の漢字の上部「日」の部分を用いて、夜空と星をイメージしました。花桃のシンボルは、「花」の漢字の草冠を用いて、花桃の花房をイメージしました。ロゴタイプは親しみを持ってもらいたいと思い、丸みを帯びたタイプを制作しました。また、長野県には多くの海外旅行者が訪れるようになってきたので、阿智村にも海外旅行者の目を向けたいと思い英文を添えてデザインさせていただきました。



みぞぐち りょう
溝口 諒
でざいんと
グラフィックデザイナー



対象課題*「日本一の星空」「日本一のはなもも」の2種類のロゴマークデザイン。

入選



ten の恵み

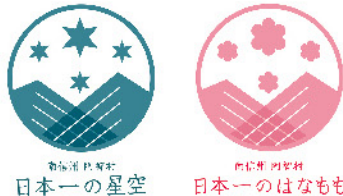
「ten」というモチーフを幾何学的に組み合わせることで花桃と星空のロゴをデザインしました。阿智村は満天の星空、天空の楽園と評され、また神話と縁が深い昼神温泉があります。満天、天空の「天」と、神話の象徴である「鳥居」をtenで表現しています。また家紋を想わせる風格のある造形は、阿智村の長い歴史と伝統を表しています。tenを組み合わせた花桃、星空のロゴはten同様にシンプルであることから、webからパンフレット、団扇、箸袋に至るまで、あらゆるメディアへ展開が可能です。単色刷りのためコストを抑えることもできます。さらにtenの組み合わせを変えれば温泉や清流など、その他の観光資源も表現することができる、拡張性も備えたデザインです。



あさだ たかひろ
浅田 崇裕
デザインラボ ミル

対象課題*「日本一の星空」「日本一のはなもも」の2種類のロゴマークデザイン。

学生賞



「大切な人と行きたい阿智村」ロゴマークデザイン

日本一とうたわれる綺麗な景色を見に行こうと思う時、きっとその景色を大切な人と見たいはず。それは恋人だったり、家族だったり、人それぞれかもしれませんが、そこで今回「大切な人と一緒に見たい景色」をコンセプトにロゴマークを制作しました。手を取り合って、はなももが咲き乱れる道を歩いたり、満天の星空を見上げるシーンを想像し、阿智村に足を運びたいくなるようなデザインを心がけました。山のビジュアルは、阿智村の豊かな自然と「大切な人と一緒に見たい景色」というコンセプトから、手を重ね合わせる様子を表しています。また、セットでも使えるロゴマークになるよう、色を同じトーンで揃え、姫と彦星、お雛様とお内裏様をイメージさせる、カップルらしい色の組み合わせで制作しました。



おびなた はるな
大日方 春奈
長野美術専門学校

対象課題*「信州北八ヶ岳山麓豚」生肉500gのパッケージデザイン。

学生賞



「北八ヶ岳の顔」

店頭に並んですぐに「豚だ!」とわかり、親近感を持ってもらうように、豚の顔の形をモチーフに、新しい豚肉のパッケージデザインを考えました。さらに、テクスチャーに豚の毛皮を用いることで、豚のリアルな質感を表現しました。パッケージの裏面には、商品について親近感を持ってもらうよう、「信州北八ヶ岳山麓豚」の説明文を付けました。さらに、売り場のスペースを大きく取らず、豚肉の味をより多く楽しんでもらえるよう、500gの豚肉を、250gずつ2パックに小分けにしました。この作品を作るのに協力してくださった方々に、感謝をしています。



こひき しょう
小引 翔
滋賀県立大学

対象課題*「ほしりんご」3種類のパッケージデザイン。

学生賞



DRY SWEET

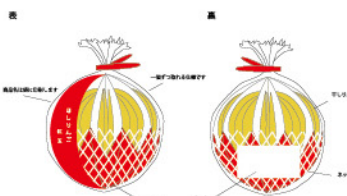
私はこの商品に山下フルーツ農園さんがどれだけこだわりをもって作っているかを知り驚きました。そんな熱いこだわりを経て商品になるまでの過程をひとつのストーリーと考え、パッケージの形体を考える上で「本」をモチーフに考えました。円の形をした線とグラデーションにより時間、こだわり、成熟、凝縮を表しています。中には見開きページをつくり、干し林檎へのこだわり、使用された林檎の品種の特徴を載せています。食べた後、パッケージが本として残り続けることを願って作成しました。



なかばやし ゆき
中林 裕希
長野大学

対象課題*「ほしりんご」3種類のパッケージデザイン。

学生賞



まるごとりんご

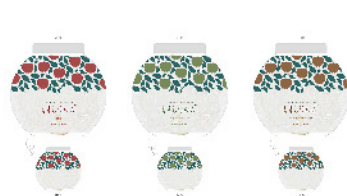
「りんごまるごと一個分」という言葉を聞き、見た目「りんごまるごと」を表現するにはどうすればいいかを考え、丸い入れ物にしました。私はドライフルーツが少し苦手なで、どうにかして好きになれるかを考えて、入れ物に遊びを取り入れてみようと思いました。「りんごといえばうさぎのりんごがいい!」ということで、この作品が出来上がりました。食べる時も楽しく、食べ終わった後でも楽しい。そんな作品です。今回、入賞したということでもとても嬉しいです。自分の作品が評価され、頑張った良かったです。次はもっと頑張ってみたい。ここからが本番だと、ここからなんだと今思っています。



ももせ さら
百瀬 更
専門学校未来ビジネスカレッジ

対象課題*「ほしりんご」3種類のパッケージデザイン。

学生賞



ほしりんご パッケージ

山下フルーツ農園様のホームページを拝見した際に、何回か「りんご丸ごと1個分」という言葉を目にしました。この商品を表すのにとてもぴったりな言葉だと感じ、今回の作品を作る際のコンセプトとして使用させていただきました。容器には、「りんご丸ごと」をイメージさせる球型のびんを使用します。また、上部のデザインで「農園に広がるりんご畑」、「農園のすべてからできる美味しさ」を表現しました。山下フルーツ農園様の想い、中身で勝負・農業を愛するなどのお客様へ良い商品を届けるための努力、飯綱町の気候など、いいりんご、いいほしりんごを作るためにはすべてが欠かせないものだと考えました。また、プレミアム感を出すために全体的にフォントを細くし、中身が見えすぎないように和紙のラベルを使用します。



まきの
牧野 ほのか
岡学園トータルデザインアカデミー

コンベンション推進委員 ※順不同・敬称略

相澤 徳行 相澤デザイン室 (委員長)

小林 弘典 株式会社エイブルデザイン (副委員長)

轟 久志 トドロキデザイン

北野 哲彦 長野県工業技術総合センター 環境・情報技術部門

越 将俊 岡学園トータルデザインアカデミー

相沢 剛伺 オリオン機械株式会社

溝口 諒 でざいと

塚田 文武 カシヨ株式会社

宮下ひろみ 宮下デザイン制作室

赤羽 学 セイコーエプソン株式会社

辻 圭介 長野県デザイン振興協会 (事務局)

主 催 長野県デザイン振興協会 ※代表機関／長野県／信州大学／長野大学／(一社)長野県経営者協会／長野県中小企業団体中央会／(一社)長野県商工会議所連合会／長野県商工会連合会

お問い合わせ 長野県デザイン振興協会事務局 TEL：026-238-6360 FAX：026-238-6442 E-mail：contact@ndpa.jp